

聖書の祈りが私の祈りになる（旧約編）

第5章 ソロモンとイスラエル後期のリーダーたちの祈り③



エリヤ

祈りの答えがすぐに得られず、忍耐強く待つとき

祈らないとき

祈りの答えがすぐに得られず、忍耐強く待つとき

イスラエルに対する神の主権が表され、確立されると、エリヤは、飢饉に終わりを告げる雨が来ようとしているということを、確信を持って宣言することができました。彼のこの時の祈りの言葉は記録されていませんが、彼は神に対して、雨を送ってくださるよう熱心に祈ったに違いありません。

エリヤはカルメル山の頂上に登り、地にひざまずいて自分の顔をひざの間にうずめた。それから、彼は若い者に言った。「さあ、上って行って、海のほうを見てくれ。」若い者は上って、見て来て、「何ともありません」と言った。すると、エリヤが言った。「七たびくり返しなさい。」七度目に彼は、「あれ。人の手のひらほどの小さな雲が海から上っています」と言った。それでエリヤは言った。「上って行って、アハブに言いなさい。『大雨に閉じ込められないうちに、車を整えて下って行きなさい。』」（I列王記18:42-44）

この時のエリヤの体勢には、その祈りの切迫した様子がよく表れています。ヤコブはこのような切迫した様子を「エネルゲオー」（「エネルギー」という言葉の語源にあたる）というギリシア語を用いて表していますが（訳注：ヤコブ5:16）、これは英語のKJVでは"effectual"（効果のある）や"fervent"（熱心な）、NIVでも"effectual"（効果のある）や"powerful"（強力な）と翻訳されています。よく言われるのは、この時のエリヤの姿勢は、イスラエルの女性がお産の時に取る姿勢だということです。そのような見方はあながちおかしいものでもありません。というのも、彼はまさに人々の信仰の復興のために痛み苦しんでいたからです。



しかし、疑問が湧いてくるかもしれません。神はエリヤに既に「アハブに会いに行け。わたしはこの地に雨を降らせよう」(18:1)と言っておられたのに、彼はなぜ祈らなければならなかったのか、という疑問です。エリヤは命令に従っていなかったのでしょうか。いえ、確かに従っています。ところが、約束と成就の間には、時間が過ぎてしまっていました。この遅れの理由について、私たちも熟考したいと思います。

神はどのようなわけか、人間の様々な事柄に対する介入を制限され、ご自分のしもべたちの自発的な行動に委ねなければならないのです。そして、しもべたちの信仰と祈りを求めになり、そこに恵みを注がれるのです。結論としては、神は私たちの祈りを必要とされているわけではないにせよ、強くお求めになっているということです。私たちが正しく、そして、たえず祈るならば、さらにどれほど大きな栄光を神にお返しすることができ、さらにどれほど多くの人々を神に立ち返らせることができることでしょうか。

ある人々は、一つのことに二回以上祈るなら、それは信仰の欠如を表していると主張しますが、ここでのエリヤの例は、そのような人々を優しく諭すものであるとともに、諦めずに祈ること、忍耐強く祈ることの教訓ともなっています。エリヤの、断固として継続される祈りと、しもべに何度も命じて神のお答えの最初の兆しを見に行かせる様子は、まさに不信仰とは対極にあるものです。彼は、雨が降ることはわかっていたのですが、それが実現するには、自分が果たさなければならない本質的な役割があると考えていたのです。今日を生きる私たちは、これと同じ意識を持って祈っているのでしょうか。

祈らないとき

ヤコブはエリヤもまた、私たちと同じ人間だったと語っていますが(訳注：ヤコブ5:17)、ここにもまた例があります。ここに、祈りの人としての彼に私たちが自らを重ね合わせることのできる機会が見られるのです。祈りによって火と雨を降らせることのできる日があるかと思えば、次の瞬間には死を願って祈るという事態も起こり得るのです(I列王19:1-7)を読んでください。

自分は荒野へ一日の道のりを入れて行った。彼は、えにしだの木の陰にすわり、自分の死を願って言った。「主よ。もう十分です。私のいのちを取ってください。私は先祖たちにまさっていませんから。(I列王記19:4)



祈る時があれば、(紅海を前にしたモーセについて触れたように)祈らない時もあります。私たちの地上のすみかが過労や落胆に蝕まれているような時の祈りは、容易に、創造主の恵み深いみこころに反した祈りとなってしまうことがあります。幸いなことに、神は、人間としての私たちの性質をご存じであり、私たちがどのように形造ってくださったか(詩篇103:14を参照)を思い起こしてくださいます。生きることに打ちのめされて、ふさわしくない祈りを捧げてしまっても、神は私たちをお責めにはなりません。また、感謝なことに、そのような祈りには答えてもく付きません。もしも神がこの疲れ果ててしまった預言者の願いにお答えになっていたなら、どれほどのものが失われていたことでしょうか。神はエリヤについて、死なせることなしにこの地上から脱出させる計画をお持ちでした(II列王2:1)。ところが、この時点においてエリヤは、死ぬことでこの地上から逃げ出したいと願っているのです。

聖書が、人の偉大な業績だけでなく、その葛藤や失敗、敗北についても語り、その全体を伝えてくれているのは、私たちの徳を高めるためです。変わる事のない神とは異なり、人の歩みというものは、「栄光」と「スキャンダル」の日々となり得るものです。聖書は、描かれている英雄たちを美辞麗句と美談で祭り上げてはいません。私たちに彼らのありのままを見せ、成功の瞬間はもちろんのこと、弱さの時からも学ぶことができるようにしてくれているのです。

ここまで見てきたように、エリヤの祈りの結果は、いずれも非常に素晴らしいものでした。あまりに素晴らしすぎて、おそらくは、励ましを受けるどころか萎縮してしまうほどです。そこで、記録されたエリヤの祈りを学ぶことに加えて、彼のことに触れている他の聖書箇所についても考えてみます。例えば、主イエスの弟であるヤコブは、聞かれる祈りというものを、エリヤに言及しつつ例証しています(ヤコブ5:16-20)。

5:16 ですから、あなたがたは、互いに罪を言い表わし、互いのために祈りなさい。いやされるためです。義人の祈りは働くと、大きな力があります。

5:17 エリヤは、私たちと同じような人でしたが、雨が降らないように祈ると、三年六か月の間、地に雨が降りませんでした。

5:18 そして、再び祈ると、天は雨を降らせ、地はその実を実らせました。

5:19 私の兄弟たち。あなたがたのうちに、真理から迷い出た者がいて、だれかがその人を連れ戻すようなことがあれば、

5:20 罪人を迷いの道から引き戻す者は、罪人のたましいを死から救い出し、また、多くの罪をおおうのだということを、あなたがたは知っていなさい。

聖霊は、ヤコブに靈感を与えて「**エリヤは、私たちと同じような人でした**」(ヤコブ5:17)と記させ、私たちを励ましてくれていますが、これはあたかも、エリヤについての誤解を払拭しようとしているかのようです。ここまで見てきたように、エリヤもまた、人間としての自分自身の性質を克服しなければなりませんでした。そして、魂に戦いを挑む、墮落した性質に由来してまわりついてくる罪を克服しなければならなかったのです。





質問

- 1 エリヤは、神が飢饉の終わりを告げる雨を送って下さるように熱心に祈りました。
あなたが今まで熱心に祈ったことにどんなことがありますか？今の段階で、祈った結果はどうなりましたか？
- 2 神の約束とその成就の間に時間が過ぎるのはなぜですか？
エリヤが断固として祈りを継続し、神のお答えの兆しを何度も確認しようとしたのはなぜですか？
あなたにも神の約束が実現するのが遅いと感じている事柄がありますか？遅れているのはなぜだと思いますか？
- 3 エリヤが祈ったふさわしくない祈りとは何ですか？
なぜエリヤはそんな祈りをしたと思いますか？
神は私たちが祈るふさわしくない祈りにどのように対応して下さると思いますか？
- 4 聖書が、人の偉大な業績だけでなく、葛藤や失敗や敗北についても語っているのはなぜですか？
エリヤは私たちと同じような弱さをもった人であったと書かれていますが、そのエリヤからあなたは祈りについて何を学ぶことができますか？
- 5 今日読んだ箇所から、あなたは祈りについてどんなことを教えられましたか？
どんなことを実践したいと思いますか？



祈り

天の父なる神さま。あなたが私の祈りを強く求めておられるので、私はあなたの約束を信じて祈ります。その約束が実現すると信じています。私の弱さから生じる課題について、祈りの中であなたのお取り扱いを受けることができますように。